令和４・５年度　練馬区教育委員会教育課題研究指定校

研究主題

自主的に行動し、自らの可能性を広げる生徒の育成
～集団活動を通して～

練馬区教育委員会教育長　堀　和夫

国の第４期教育振興基本計画（令和５年度～令和９年度）では、将来の予測が困難な時代の教育のコンセプトとして、持続可能な社会の創り手の育成や日本社会に根差したウェルビーイングの向上が掲げられています。これからの学校教育においては、学習者が主体となる教育活動を展開し、他者との関わり合いを通して学びを深めることがより一層求められています。

そうした中、大泉学園中学校では、令和４・５年度の２年間にわたり、研究主題を「自主的に行動し、自らの可能性を広げる生徒の育成～集団活動を通して～」とし、研究に取り組みました。生徒が自分で考え、動くことができるようになることを目指し、生徒同士が関わり、協働する場面や、生徒自身がよりよい学校生活について考え、その考えを実現する場面を計画的に教育活動に組み込んできました。

学級活動、生徒会活動、学校行事の中で、生徒が人や活動に積極的に関わりながら学ぶことを通じて、生徒の達成感や自己肯定感の向上などの変容が見られたことは、研究の大きな成果であると考えます。

結びにあたり、本校の研究に対し温かくご指導いただきました、前東京女子体育大学・東京女子体育短期大学教授　青木　由美子　先生、茂来学園大日向中学校校長・前日本特別活動学会会長　長沼　豊　先生ならびに東村山市立東村山第五中学校　指導教諭 吉川 滋之 先生には深く感謝申し上げるとともに、本研究に取り組まれた杉田　正穂　校長先生をはじめ教職員の皆様に敬意を表し、あいさつといたします。

練馬区立大泉学園中学校　校長　杉田　正穂

令和４・５年度と２年間にわたり練馬区教育委員会教育課題研究指定校として、研究主題「自主的に行動し、自らの可能性を広げる生徒の育成～集団活動を通して～」の研究に取り組んでまいりました。学習指導要領には次世代を担う子供たちが、激しい変化とグローバル化の進展した社会の中で、自主的に行動し、自ら考え判断し、たくましく生きることができる「人間力」を向上させ、新しい未来を切り拓いていくために必要な資質・能力を育むことが明示されています。私たち教員は生徒一人一人に、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、未来を切り拓く力を付けさせることができるのか、方法を模索しながら研究を進めてきました。本日は、これまでの研究成果をご報告させていただきます。また、本研究に対し、ご指導いただければ幸いです。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、研究を支えていただきました練馬区教育委員会をはじめ、前東京女子体育大学・東京女子体育短期大学教授　青木　由美子　先生、茂来学園大日向中学校校長・前日本特別活動学会会長　長沼　豊　先生、東村山市立東村山第五中学校　指導教諭 吉川 滋之 先生には直接ご指導を賜りましたこと深く感謝申し上げるとともに、今後とも本校の教育活動を支えてくださいますようお願いいたします。

練馬区立大泉学園中学校

1 目指す生徒像

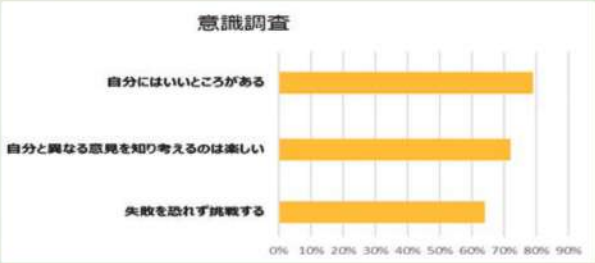
本校の教育目標
- 自主　すすんでおこなう
- 誠実　まごころをこめてことにあたる
- 努力　たくましくやりぬく

自ら学び、考え、判断し、表現できる生徒
互いの個性を認め合い、心のこもった対応ができる生徒
自らを高め、たくましく生きる力を身に付ける生徒

2 主題設定の理由

本校の実態（令和４年３月時点）

【生徒アンケートより】

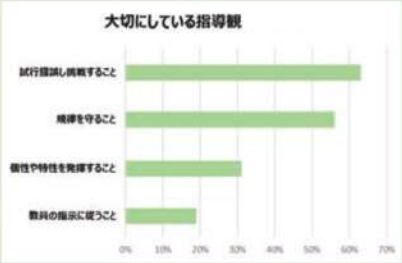


- 小学校の頃は、学級や係で自分たちで考えて企画する時間があって楽しかった。
- クラスや学年で、自分たちで考えたレクや集会を考えてやってみたい。
- 他の学年と交流する行事があるといい。
- 授業の中で人と関わることを増やしてほしい。
- 生徒が好きなことや得意なことを伸ばし、発揮できる場が欲しい。

【分析・考察】

小学校時代の「特別活動」の経験を踏まえて、生徒にはやってみたいことがあり交流を望んでいる。しかしながら、その機会が中学校では限定的なことや機会が設定されていないことへの諦めがある。

【教員アンケートより】



- 授業の流れは教師側であらかじめ決めておくが、生徒が達成感を感じられるように計画する。
- 学校生活での規律を重視している。
- 生徒に自分で考えて動く余地を与えるため、指示は出さずに見守ることを大切にしている。
- 学校経営方針や学年経営方針に基づいて指導をし、生徒がねらいを理解できるように指導している。
- 生徒は素直で、教師の指示通り行動できる。

【分析・考察】

生徒が体験や関わり合いを通して学び、成長することを期待しているが、一方で指導の手だてが分からなかったり、慌ただしい時程の中で足並みをそろえた教育活動をこなすことに力点が置かれたりしている。その結果、教員の指示通りに行動することが優先されやすくなっている。

急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

「自ら学び、考え、判断し、表現できる」
「互いの個性を認め合い、心のこもった対応ができる」
「自らを高め、たくましく生きる力を身に付ける」

生徒一人一人が社会の変化に主体的に関わり、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮できるようにしていくことが必要である。また、多様な価値観を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越えることができる資質・能力を育むことが求められている。

本校の生徒は、教師の指導や指示に従い、素直に動くことができる生徒が多い一方で、自ら考え判断し行動することに課題があった。また、生徒が自主性を発揮できる機会や時間が十分に設定できていないという課題もあった。

そこで、自主的に行動する生徒を育成する手だてとして、特別活動に着目した指導の在り方を研究することにした。

3 研究のねらい

すべての教育活動において生徒が自主的に行動できる環境をつくり、生徒に自ら考え行動し、そして自らを高め、たくましく生きる力を身に付けさせる。

4 研究仮説

授業や学校行事、委員会活動等の集団活動を通して、他者との関わり合いと協働の機会を充実させることで、生徒は自主的に行動し、自らの可能性を広げる力を身に付ける。

5 研究の根拠

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別活動編より
【特別活動の目標】 集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成することを目指す。

【特別活動の果たすべき役割の３つの視点】
（１）人間関係形成（２）社会参画（３）自己実現

研究の構造イメージ　研究推進委員会作成

6 研究方法

1　質問紙調査による本校生徒の意識の変容調査
2　質問紙調査による教員の意識および指導法の変容調査
3　研究推進委員会による研修会や教材研究および指導法の開発と周知
4　授業実践の蓄積と分析、検証、指導方法の協議、フィードバック

7 研究のあらまし

研究の着眼点

学級活動

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して、実践したりすることに自主的・実践的に取り組むことを通して、資質・能力を育成することを目指す。

生徒会活動

異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的・実践的に取り組むことを通して、資質・能力を育成することを目指す。

学校行事

全校又は学年の生徒で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、資質・能力を育成することを目指す。

人間関係形成　**社会参画**　**自己実現**

指導改善の手だて

手だて①「関わり、協働する指導方法」

「人と関わり合うこと」「協働してやりとげること」を体験させる。

手だて②「機会の創出」

生徒に「よりよい学校生活」について深く思考させ、実現する機会を多くもたせる。

自主性の尊重

本研究では、「学校教育の活動の主体は生徒である」ということを共通理念として取り組む。生徒が自主的に行動し、自らの可能性を広げるためには、教師側が望む形での成功や予定調和で終わらせるのを善しとする指導観ではなく、活動の過程における気付きや成長こそ大切な学びである。時には失敗することもあるが、失敗を経験させるプロセスも大切である。そして、活動の結果を生徒自身に振り返らせる時間や挽回する機会を作り、意欲を持続させながら「次はどうすべきか」という新たな目標を生徒自身が見い出だせるように導く。それにより、生徒が新たな目標に向かって自主的に学びを生かすサイクルが形成されていく。

8 研究の概要 「関わり、協働する指導方法」「機会の創出」

研究の歩み

R4.3月	4月	6月	7月	9月	11月	12月	1月	2月	3月	R5. 4月	6月	9月	10月	11月	12月	R6.1月	3月
質問紙調査（事前）	先行研究、事例研究				授業実践１期	指導案作成検討会		授業実践２期		実践の蓄積、改善、指導案作成		授業実践３期		質問紙調査（事後）		研究の分析、検証、まとめ	
【生徒会活動】	委員会活動の活性化		生徒会朝礼の改良		第１回生活のきまりを見直そう			中央委員会の改良			生徒会企画イベント		学校生活の充実		第２回生活のきまりを見直そう		
【学校行事への取組】		運動会	修学旅行	職場体験	合唱コンクール	校外学習		スキー移動教室			運動会	修学旅行	合唱コンクール	職場体験	校外学習		スキー移動教室

取組の内容

学級活動

①議題BOXを設置（議題の確認）

クラスの課題を改善したい。

②事前の活動（リーダー育成）

学級会の進行手順の確認

クラスのみんなともっと仲良くなりたい。

③学級会（出し合う、比べ合う、まとめる）

クラスレクはドロケイにしよう！

一緒にやってくれる人はいませんか。

私がやります。

工夫してやってみよう。

④実践

クラスレクの実施

楽しい！またやりたいな！

同じ人ばかりを追いかけないようにしよう。

クラスの次の取組へとつながるサイクル

人間関係形成
社会参画
自己実現

合意形成

意思決定

【生徒側】 話合いの手順や意見のまとめ方、タイムマネジメントに課題があり、意見を集約する際に多数決に頼る傾向があった。
⇒学級会の経験を重ねることで、目的や議題を明確にした話合いや論理的な議事進行ができるようになった。意見を生かした決定ができるようになった。
【教員側】「学級経営をする上で、生徒が主体的に取り組む指導方法が分からない」「生徒にどの程度委ねたらよいか分からない」という課題があった。
⇒事前の活動を大切にするなど、教員の指導の意味やポイントをつかむことができた。学級会の「進行手順」の部分を整理・助言することで、生徒の議事進行スキルが高まり、運営を委ねることで生徒を生かす指導方法が身に付いた。

生徒会活動

①事前の活動(リーダー育成)

今日の委員会はこんな流れで進めます。

委員長たちが事前に教員と打ち合わせ

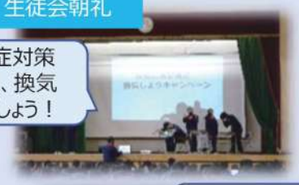
委員長・副委員長が議事進行

②生徒主体の話合い

教員は、論点の整理、意見のまとめ方を助言

③生徒がアイデアを出し自主的な活動

生徒会朝礼



感染症対策のため、換気をしましょう！

昼の放送にリクエストする方法を説明します。

昼休みのフリースロー大会

皆で関わるから仲良くなれるね！

拡大中央委員会

生活のきまりを見直そう！

生徒が主体的に参画し、アイデアを形にする時間と機会の創出

人間関係形成
社会参画
自己実現

リーダーシップ

異年齢

【生徒側】「委員会に所属している意義が感じられない」という課題があった。
⇒活動の機会や時間が設定されることで、主体的に話し合えるようになった。一人一人の意見が活動に反映されるため、やりがいをもてるようになった。それとともに、話合いからアイデアを出す意欲が生まれた。その結果、見通しをもった活動を計画できるようになった。
【教員側】「各種委員会で話し合う議題や内容を教員主導で進めてしまい、活動も前年度の踏襲のものが多くなり発展的でない」という課題があった。
⇒生徒に運営を委ねることで生徒が思考・判断し始め、新たな活動を創造することができるようになった。

学校行事

運動会

①事前の活動（ねらいの明確化）

理想の運動会についての話合い

どんな運動会にしたいか、昨年の動画を見たり、先輩に昨年度の様子を聞いたりしてみよう！

②事前の活動（企画・立案）

練習計画の立案、生徒会種目の検討、得点配分や種目のルール検討

どんな競技がやれるかな。種目に必要な道具やルールはどうする？

③計画の実践

自分たちで検討したことを実践し、次の活動へつなげる

今日の活動でよかった点を自分たちで確認しよう！

人間関係形成
社会参画
自己実現

所属感

連帯感

合唱コンクール

①事前の活動(企画運営)

実行委員による計画立案練習指示

パートリーダーからのアドバイスを聞こう。

②事前の活動（クラスで団結）

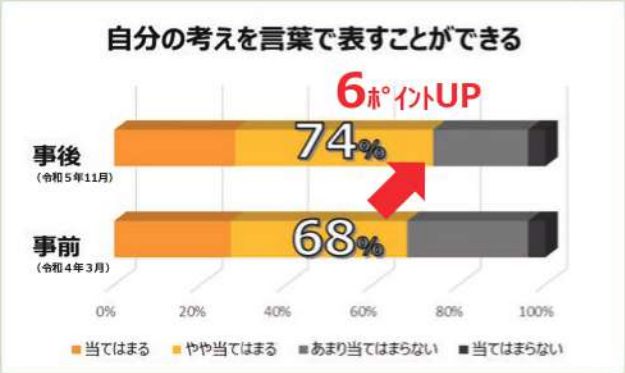
ICT機器の活用

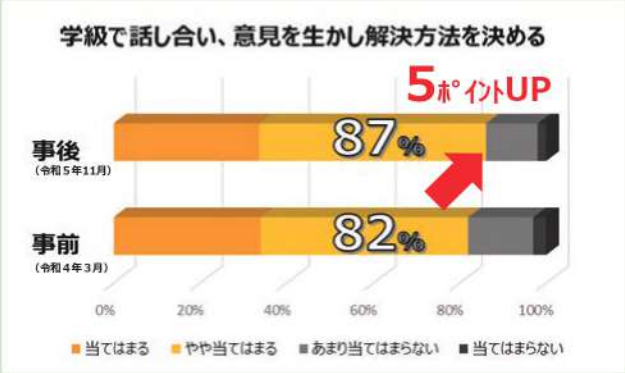
自由曲紹介の文章はクラスメイトの想いを込めよう。

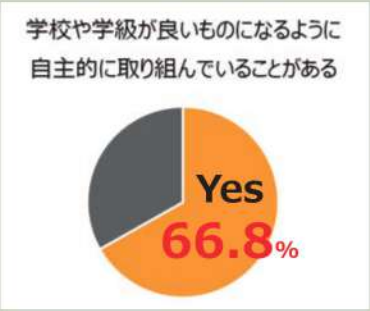
【生徒側】 実行委員会を組織するものの、何から始めたらいいか分からず、所属感を感じられないという課題があった。
⇒昨年度の動画を見たり、タブレットPCを活用したりして、実行委員や先生で情報を共有したりすることで企画運営がしやすくなった。学年を超えての話合い活動で、先輩から後輩へ指示を出しながら練習を進めていけるようになった。
【教員側】 担当教員が生徒に指示し、それに従って生徒が計画通りに進行する、ということに指導の力点がおかれていたことが課題であった。
⇒企画立案に生徒を参画させることで、自分たちが行事を作るという意識を高めさせることができた。教員の役割は助言と進捗確認であると理解した。

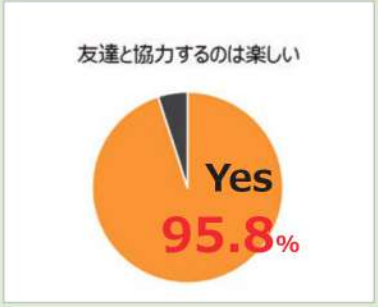
9 研究の成果

生徒の変容（令和５年11月時点）









【生徒記述より】 学校生活で、生徒が自主的に考えたり活動できたりするためには、どんなことが必要だと思いますか。

- 思いやりをもつこと
- 協力すること
- 意見を広く集めること。
- 発表が苦手な人からも収集しやすく なるようにする仕組みを作ること
- 生徒一人一人が自主的に活動や発言をしやすくなる場を作ること
- 積極的な発言ができるようにすること
- 話合いをする時間を増やすこと
- 生徒同士で意見を交換し、互いの理解を深めること
- 授業での教え合いを行うこと
- 行事を生徒で運営すること
- お互いの意見を尊重し合うこと
- 学年を超えての交流をすること
- 他のクラスとの交流授業

教員の変容（令和５年11月時点）

- これからの時代に必要な教育活動の在り方について理解した。指導法の引き出しが増えたことで、学級指導や学校行事の中で多様な生徒を活かす指導ができるようになった。
- 生徒観や指導観の共有により、中長期的なビジョンをもった指導が共有されたことで精神的なゆとりが生まれた。その結果、生徒や同僚の良い点や長所に目を向け、尊重する気持ちをもてるようになった。
- 経験年数や立場の違いを超えて、教材研究ができるようになった。

10 今後の課題

- **「関わり、協働する指導方法」の充実** → 合意形成の度合い、振り返り活動の充実
- **「機会の創出」の新たな視点** → 教職員の合意形成、対話、生徒の参画
- **指導力向上への研修研鑽** → 「Learning by doing（なすことによって学ぶ）」指導観、教科指導との往還
- **生徒・教員のアイデアや創意工夫の具現化** → 教科横断、カリキュラムマネジメント

「伝え合いたい！」

意図的計画的な活動形態、
関わり合い・協働を生む言語活動

「もっと工夫してみたい！」

生徒が手芸で作成した
本校マスコットキャラクター

学級活動

各教科

生徒会活動

学校行事

「次はこうしてみたい！」

定期的な学級会、話し合いのためのツール活用、
教科指導と学級活動の相乗効果

「私も参加してみたい！」

実行委員会が企画運営する学校行事